

北条氏照朱印状（新堰開鑿願いにつき許可）

（一五六五）
永禄八年（推定）三月二〇日

【解読文】

野蔦之郷本堰口、川二崩、当年水
不上之間、新堰可鑿敷之旨、得
御意候、以彼堰過分之田地可荒
義如何候間、小分之年貢目引候義
不苦候、尤新堰可為鑿旨被仰出状
如件

【読み下し文】

野蔦^{のづた}の郷^{ごう}本^{ほん}堰^{せき}口^{ぐち}、川^{かわ}に崩^{くず}れ、当^{とう}年^{ねん}は水^{みず}上^あが
らざるの^{あいだ}間^ま、新^{しん}堰^{せき}鑿^つべき^かの旨^{むね}、御^ぎ意^い
を得^え候^{そうろう}。彼^かの堰^{せき}を以^{もつ}て過^か分^{ぶん}の田^{でん}地^ち荒^あらす
べき義^ぎ如何^いに候^{そうろう}間^ま、小^{しょう}分^{ぶん}の年^{ねん}貢^ぐ目^め引^び
候^{そうろう}義^ぎは苦^{くる}しからず候^{そうろう}。尤^{もつと}も新^{しん}堰^{せき}鑿^つ
すべき旨^{むね}仰^{おほ}せ出^{いだ}さるる状^{じょう}件^{くだん}の如^{ごと}し。

丑

丑

三月廿日

一雲奉

三月廿日

一雲奉

武藤半六郎殿

武藤半六郎殿

専正軒

専正軒